



▲アートが黒板を占領する『黒板ジャック』。武蔵野美術大学、東京家政大学、芸術総合高校の学生・生徒が日曜日に全14作品を描き上げました。月曜日に登校してきた三ヶ島中学校の生徒は、驚きと感動を隠せず、教室間を走り回りました。

1月24日(日)・25日(月)／三ヶ島中学校 (写真：市民カメラマン・滝島利男)



全14作品を市HP(「黒板」で検索)で公開!



今回の市民レポーター!

今回は双子レポーター。左から岡田 寿草くん、寛草くん(西新井町在住)です。ライオンズの試合結果は欠かさずチェックしている小学6年生。



今回の突撃先!

川越誠司投手(背番号26/左投げ・左打ち)

平成27年のドラフト会議で2位指名された新入団選手。即戦力のリリーフとして期待されています。大学時代は外野手もこなし、そのとき目標だったホークスの柳田悠岐選手と対戦したいそうです。



インタビュー「川越投手ってどんな人？」

「性格はマイペース」と本人が語るとおり、とても落ち着いた口調で取材に応じてくれました。そんな川越投手ですが、マウンド上では一転して「気持ち前面に押し出したピッチング」が特徴です。最大の武器である「ナックルカーブ」は、打者の手前で大きく縦に曲がります。プロでも使いこなせる投手が少ない球種です。

趣味を聞くと、「ウエイトトレーニング」とのこと。入寮時もプロテインを持ち込み、栄養面にも気を配っています。大学時代から体づくりに本格的に取り組んでいるそうですが、「高校時代から栄養面に気を遣っていたら、もっと体を大きくできた」と後悔しているとのこと。プロの世界では、シーズンを通じてけがなく戦えるよう、しっかりとした体づくりをしていきたいと語ってくれました。

最後に、プロ野球を夢見る子どもたちへ「技術うんぬんより、野球を楽しむ心を持つことが大事。人生の分岐点があると思いますが、ものにして夢をつかんでください」とのメッセージをいただきました。そして「ファンに愛される息の長い選手になりたい」という新たな夢を語ってくれました。1軍で活躍する姿が待ち遠しいですね!



▲身振り手振りを交えたインタビュー(室内練習場)

レポートを終えて

練習を見ていて、体ががっしりしてオーラがあったので、少し怖かったです。でも、本当は笑顔がすてきな優しい選手でした!これからもずっと応援していきます!

商業観光課 ☎2998-9155



▲太極拳・なぎなた・杖術・柔道・空手道・合気道・剣道・弓道の8つの連盟・団体が演武などを披露した『第21回武道祭』。日ごろの練習成果や型などが披露され、観客のみならず、出場者も互いをたたえる拍手を送りあいました。

2月7日(日)／市民武道館 (写真：市民カメラマン・三平資郎)

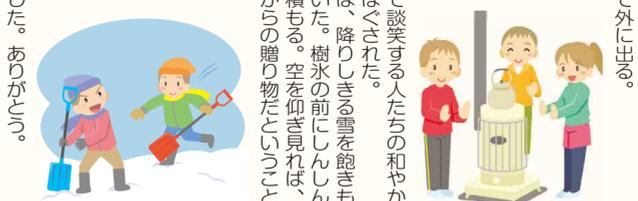


中富南にある日本大学芸術学部所沢校舎。三沢さんは、相模原市から片道2時間をかけて通う。大学ではデザイン学科に在籍するが、ここで学ぶのはいわゆる「芸術」ではない。例えば製品デザインを考へるときに、単に美しさを求めるのではなく「デザインによって感情を作る」ことを考へる。「アートは一つの手段。問題を解決して、より豊かな生活を生み出すのが『デザイン』です」。

小さい頃から「楽しい」を作ることに関心があった。相模原市で米軍基地が一部返還され、跡地活用が話題になると、当時中学生だった三沢さんは、迷わずテーマパークの建設を市に訴えた。「人が集まる場所で一気に盛り上げる仕掛けを作りたい」と、大学1年生のときに謎解きイベントを企画。2年生となった昨春の学校祭で2作品を披露した。このとき、所沢市の職員と出会い、3月12日(土)のところん探偵団(7頁参照)の全面プロデュースへとつながった。

屋外での企画は初めてだが「アイデアはあるのに実現するチャンスがないんです。市のイベントを任せてもらえてうれしい」と怯む様子は微塵もない。最近のレジャーは、自分が主役になって楽しむ「体験型」が人気だという。「単に頭を使って推理するだけじゃなく、体を

使って楽しむ謎解きにしました」と微笑む。ところん探偵団は親子での参加も多いが「子どもが得意な問題と、大人が得意な問題を両方用意しました。コミュニケーションをとって、一緒に解いてもらいたいです」。電子ゲームとは一味違った「楽しみ」がありそうだ。謎解きそのものよりもストーリー作りが難しい。適切な難易度設定、誤解させないための洗練された表記など、細部にまでこだわった。完成するまでいくつもの試作品を作ったが、それも全て手弁当だ。それでも「たくさんの所沢市の職員さんがスタッフとして参加してくれるから企画が実現できたんです。本当にありがたい」と周囲への感謝を忘れない。相手への自然な気遣いが、みんなの「楽しい」を作る第一歩なのだろう。



▲所沢が誇る伝統芸能「重松流祭囃子」と「岩崎獅子舞」が一度に体感できる『第12回所沢市伝統芸能発表会』。2年に1回の大舞台に、出演団体の演奏・演技にも熱が入っていました。休憩時には「お囃子体験」も行われ、子どもたちが楽しそうに太鼓をたたきました。

1月24日(日)／所沢市民文化センターミュージズ (動画：市民カメラマン・笠原政男)

謎解きイベント「ところん探偵団」をプロデュース!

三沢俊弥さん(日本大学芸術学部2年生)

「謎解きそのものよりもストーリー作りが難しい。適切な難易度設定、誤解させないための洗練された表記など、細部にまでこだわった。完成するまでいくつもの試作品を作ったが、それも全て手弁当だ。それでも「たくさんの所沢市の職員さんがスタッフとして参加してくれるから企画が実現できたんです。本当にありがたい」と周囲への感謝を忘れない。相手への自然な気遣いが、みんなの「楽しい」を作る第一歩なのだろう。

夢は、オリジナルのテーマパークを作ることだ。所沢校舎を巣立った三沢さんの作る「楽しさ」に、私たちが魅了される日が来ることを楽しみにしたい。



▲家族や友人の力を借りて試作品を作り続けてきた

雪を溶かすひと 東狭山ヶ丘 関口 幸代 先日、またもや埼玉に大雪が降った。幼いころは、雪が降ったただ大喜びして、かまくらや雪だるまを作ったり、雪合戦をしたりして遊んだ。そんな風に楽しんだのは、今や昔。先日の大雪では、何度も転びながら、やっとの思いで職場にたどり着いた。私の仕事は介護職のため、雪が降ったからといって休めない。それでも、利用者さんからの「寒い中ありがとうー」のひと言葉で、疲れを忘れて笑顔になった。



▲所沢中学校区(所沢小学校・明峰小学校・所沢中学校)で力を入れている『地域ぐるみのあいさつ運動』(下記記事参照)。1月に作成したばかりの「のぼり旗」を目印に、学校・家庭・地域が連携して元気なあいさつを交わっていました。

2月5日(日)／明峰小学校 (写真：市民カメラマン・浅見司郎)

地域の絆 やっぱり自治会・町内会でしょ! 21 近所同士で力を合わせ、さまざまな課題解決や地域の絆づくりを行っている自治会・町内会をご紹介します。

宮本町町内会

市内中央に位置する宮本町町内会は、宮本町1丁目と2丁目の820世帯で活動しています。その広い区域の中には「あいさつ運動実施中」と書かれた看板がたくさん設置されています。

「あいさつはコミュニケーションを円滑にし、気持ちを清々しくしてくれます」と話す大石忠之会長も平成27年4月から町内会であいさつ運動を開始しました。活動を開始するにあたって、会長自ら先進の自治会長を訪問し、話を聞きました。

また、町内会の生徒が通い、教育目標の中心にあいさつ運動を据えている所沢中学校とも意見交換しました。

あいさつをすることで住民が顔見知りになり、町内の防犯効果を高めます。集合住宅での緊急事態の備えや子どもたちの安全確保にもつながっています。毎週月曜日、小学生の下校時と夜間に行っているパトロールでもあいさつ運動の手旗を持つようになりました。あいさつをしながら、子どもたちや町内の安全・安心を守っています。

「明るいまちづくりをしていくのが私の信念なんです」と笑顔で語る大石会長。あいさつ運動を始めてもうすぐ1年です。自身が積極的にあいさつをしていく中で、「初めは戸惑ったり反応がなかったりした住民が、向こうから声をかけてくれるようになりました」と成果を感じています。

あいさつを通じて住民同士の距離が近くなることで、町内会のイベントもさらに楽しいものになりました。例えば毎年8月に行う野外パーティー。班ごとに火おこしから全て手作業でカレーを作り、おいしさを競う行事で、中学生も審査員に加わります。親子で約200人の参加者が集まるこの行事でも、あいさつ運動から得られた安心感・一体感が明るく楽しい雰囲気作りにつながっています。

「住民同士の絆をさらに深めるためにも、根気よくあいさつ運動を継続していきます」と大石会長は力強く語ってくれました。次回は並木地区の駅前通り団地自治会を紹介いたします。 地域づくり推進課 ☎2998-9083